



## 2024年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年5月15日

上場会社名 株式会社アミファ 上場取引所 東  
コード番号 7800 URL <https://www.amifa.co.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 藤井愉三  
問合せ先責任者（役職名） 執行役員経理部長（氏名） 川上康夫（TEL）03（6432）9500  
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年9月期第2四半期の業績（2023年10月1日～2024年3月31日）

## （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第2四半期	4,932	5.7	82	△69.0	70	△76.9	48	△74.5
2023年9月期第2四半期	4,668	41.4	265	△22.1	306	△7.2	191	△7.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
2024年9月期第2四半期	円 銭 16.24		円 銭 —					
2023年9月期第2四半期	円 銭 59.22		円 銭 —					

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第2四半期	4,069	2,370	58.3
2023年9月期	4,409	2,392	54.3

（参考）自己資本 2024年9月期第2四半期 2,370百万円 2023年9月期 2,392百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	24.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,275	14.1	240	32.2	235	15.9	154	4.5	51.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記(4) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年9月期2Q	3,235,000株	2023年9月期	3,235,000株
② 期末自己株式数	2024年9月期2Q	216,415株	2023年9月期	240,049株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年9月期2Q	3,009,803株	2023年9月期2Q	3,234,951株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）キャッシュ・フローに関する説明	3
（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
（1）四半期貸借対照表	4
（2）四半期損益計算書	5
（第2四半期累計期間）	5
（3）四半期キャッシュ・フロー計算書	6
（4）四半期財務諸表に関する注記事項	7
（表示方法の変更）	7
（継続企業的前提に関する注記）	7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	7
（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)におけるわが国経済は、春闘における大手企業を中心とした高い水準の賃上げの成果や株式市況の活況など明るい兆しも見える一方、日銀のマイナス金利政策の解除、急激な円安の進行、諸物価の上昇等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした環境下、当社は、クリスマス等のイベントを始めとして、新企画、新商品の提案に積極的に取り組み、主要顧客である100円ショップ各社に向けてライフスタイル雑貨の販売に注力し、前年同期を上回る販売となりました。

一方、損益につきましては、個別商品ごとの採算性を重視した販売に努めましたが、急激かつ大幅な円安の影響が大きく、さらに物流量増加による出荷・倉庫関連費用の増加、売上拡大に伴う労務関係費用の増加もあり、前年同期比減益となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績の概要は以下の通りであります。

(千円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
当第2四半期累計期間	4,932,881	82,492	70,824	48,868
前第2四半期累計期間	4,668,181	265,751	306,919	191,578
増減額	264,700	△183,259	△236,094	△142,710
増減率(%)	5.7	△69.0	△76.9	△74.5

売上高は、前年同期比264,700千円増(5.7%増)の4,932,881千円となりました。

これは、ハロウィン、クリスマスのイベント関連商品の販売が前年同期をやや上回る水準で進捗したこと、前期から引き続きキッチン用品、ライフスタイル雑貨等の販売が好調に推移したことによるものです。

なお、当第2四半期累計期間におけるライフスタイル雑貨の商品群別累計売上高は、下表の通り、「ワンプライス商品」が4,690,774千円(前年同期比6.7%増)、「プチプライス商品」が242,106千円(前年同期比11.3%減)となりました。

(千円)

	ワンプライス商品	プチプライス商品	合計
当第2四半期累計期間	4,690,774	242,106	4,932,881
前第2四半期累計期間	4,395,153	273,027	4,668,181
増減額	295,620	△30,920	264,700
増減率(%)	6.7	△11.3	5.7

営業利益は、前年同期比183,259千円減(69.0%減)の82,492千円となりました。

これは、売上高の増加による増益効果に加え、採算重視の販売の取り組みも一定の成果がありましたが、急激な円安の進行の影響が大きく、さらに物流量増加による物流関係費用の増加及び労務費の増加等が減益要因となったことによるものです。

経常利益は、前年同期比236,094千円減(76.9%減)の70,824千円となりました。

これは、営業利益の減少183,259千円があったことに加え、営業外収益において前第2四半期累計期間には為替差益40,713千円がありましたが、当第2四半期累計期間は為替差損が8,610千円と為替差損益の差が49,323千円となったことが主なものです。

以上の結果、四半期純利益は、前年同期比142,710千円減(74.5%減)の48,868千円となりました。

なお、当社の事業は、ライフスタイル雑貨事業の単一セグメントであるため、セグメントの記載をしておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は3,892,114千円となり、前事業年度末に比べ347,735千円減少いたしました。これは主に現預金が153,176千円増加、受取手形及び売掛金が88,913千円増加した一方、棚卸資産が505,767千円減少したことによるものです。固定資産は177,091千円となり、前事業年度末に比べ7,812千円増加いたしました。これは主に投資その他の資産が6,864千円増加したことによるものです。

この結果、総資産は、4,069,205千円となり、前事業年度末に比べ339,923千円減少いたしました。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は1,223,517千円となり、前事業年度末に比べ505,009千円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が99,600千円増加、未払金が102,612千円増加した一方、短期借入金が700,000千円減少したことによるものです。固定負債は474,977千円となり、前事業年度末に比べ187,080千円増加いたしました。これは長期借入金が183,800千円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は、1,698,495千円となり、前事業年度末に比べ317,929千円減少いたしました。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は2,370,710千円となり、前事業年度末に比べ21,994千円減少いたしました。これは主に四半期純利益48,868千円がありましたが、配当金支払71,878千円により利益剰余金が23,010千円減少、繰延ヘッジ損益が14,582千円減少、自己株式処分により自己株式が15,480千円減少したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前事業年度末に比べて4.0ポイント増加し、58.3%となりました。

## (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、1,029,383千円と前事業年度末に比べ153,176千円の増加となりました。

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は665,602千円（前年同期は53,337千円の収入）となりました。これは主に税引前四半期純利益70,824千円、売上債権の増加95,309千円、棚卸資産の減少505,767千円、未払金の増加128,489千円によるものです。

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は40,762千円（前年同期は10,417千円の支出）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出36,733千円によるものです。

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の減少は472,795千円（前年同期は95,081千円の支出）となりました。これは、短期借入金の返済による支出700,000千円、長期借入金の借入による収入300,000千円、長期借入金の返済による支出16,600千円、自己株式の処分による収入15,598千円、配当金の支払額71,793千円によるものです。

## (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年11月14日に公表いたしました業績見通しの数字につきましては、現時点で変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	876,207	1,029,383
受取手形及び売掛金	719,924	808,838
電子記録債権	3,060	9,456
棚卸資産	2,428,371	1,922,604
その他	212,285	121,831
流動資産合計	4,239,850	3,892,114
固定資産		
有形固定資産	44,200	41,093
無形固定資産	68,418	72,473
投資その他の資産	56,659	63,524
固定資産合計	169,278	177,091
資産合計	4,409,129	4,069,205
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	63,590	65,577
短期借入金	1,300,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	—	99,600
未払金	285,315	387,927
未払法人税等	35,590	21,955
賞与引当金	18,044	19,184
その他	25,986	29,272
流動負債合計	1,728,526	1,223,517
固定負債		
長期借入金	—	183,800
退職給付引当金	33,562	36,842
役員長期未払金	254,335	254,335
固定負債合計	287,897	474,977
負債合計	2,016,424	1,698,495
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	37,220	37,220
資本剰余金	273,468	273,586
利益剰余金	2,191,510	2,168,500
自己株式	△157,231	△141,751
株主資本合計	2,344,967	2,337,556
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	47,737	33,154
評価・換算差額等合計	47,737	33,154
純資産合計	2,392,704	2,370,710
負債純資産合計	4,409,129	4,069,205

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	4,668,181	4,932,881
売上原価	3,104,125	3,345,410
売上総利益	1,564,055	1,587,470
販売費及び一般管理費	1,298,303	1,504,978
営業利益	265,751	82,492
営業外収益		
受取利息	2	2
為替差益	40,713	—
助成金収入	—	871
固定資産売却益	1,038	—
受取補償金	249	—
還付加算金	—	411
その他	412	248
営業外収益合計	42,416	1,532
営業外費用		
支払利息	780	3,530
為替差損	—	8,610
固定資産除却損	428	—
その他	39	1,059
営業外費用合計	1,249	13,200
経常利益	306,919	70,824
税引前四半期純利益	306,919	70,824
法人税等	115,340	21,955
四半期純利益	191,578	48,868

## （3）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）	当第2四半期累計期間 （自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	306,919	70,824
減価償却費	12,602	15,711
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△130	—
賞与引当金の増減額（△は減少）	△19,829	1,140
退職給付引当金の増減額（△は減少）	4,710	3,280
受取利息及び受取配当金	△2	△2
支払利息	780	3,530
為替差損益（△は益）	—	△1,131
助成金収入	—	△871
固定資産売却損益（△は益）	△1,038	—
売上債権の増減額（△は増加）	△280,819	△95,309
棚卸資産の増減額（△は増加）	△114,688	505,767
仕入債務の増減額（△は減少）	83,753	1,987
未払金の増減額（△は減少）	36,255	128,489
その他	25,601	70,434
小計	54,113	703,851
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△780	△3,530
助成金の受取額	—	871
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	1	△35,591
営業活動によるキャッシュ・フロー	53,337	665,602
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△11,751	△4,028
有形固定資産の売却による収入	3,454	—
無形固定資産の取得による支出	△2,120	△36,733
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,417	△40,762
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（△は減少）	—	△700,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△17,500	△16,600
配当金の支払額	△77,581	△71,793
自己株式の売却による収入	—	15,598
財務活動によるキャッシュ・フロー	△95,081	△472,795
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1,131
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△52,161	153,176
現金及び現金同等物の期首残高	898,135	876,207
現金及び現金同等物の四半期末残高	845,974	1,029,383



(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(表示方法の変更)

(四半期キャッシュ・フロー計算書)

前第2四半期累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「未払金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当第2四半期累計期間より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第2四半期累計期間の四半期キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた61,856千円は、「未払金の増減額」36,255千円及び「その他」25,601千円として組み替えております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に見積実効税率を乗じて計算しております。